

三條別院のご案内

三條別院に想う

▲三條別院の責任役員を二〇二〇年より勤められた小林光紀氏が所属寺の住職を交代され、それに伴い別院責任役員を退任されました。小林氏に、現在にいたるまでの思い出などを語っていただきます。

別院の責任役員に二〇二〇年九月一日に就任して去る二〇二一年十月二十八日付で自坊の浄照寺住職を退任する事により、約十一年その職にあつた責任役員を辞する事になりました。

この間には本山の七五〇回忌御遠忌があり、また引き続き三條別院の御遠忌がありました。三條別院の御遠忌を迎えるにあたって別院本堂並びに旧御堂等の修復事業も教区会議長の職も兼ねていた関係上、教区の御寺院御門徒の方々の浄財を募りながら、しかも国策としての消費税値上げ問題も絡んでおりましたのでその前に募財をお願いする中で皆さまのご協力によりお陰様で無事に修復事業を遂行できました。

責任役員在任中は教務所長兼輪番の職におられた方々は藤坂、鷺尾、池守、森田、そして現職の海岸の五人の方でありそれぞれがそれなりの個性がおりでしたが他の責任役員の方々と

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

協力しながら至らぬ点は多々あつたとは思いますがその職を務めさせていただきました。誠に有難うございました。 拝

小林 光紀氏 (第十一組浄照寺前任職)

▲浄照寺宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要で導師を勤める小林氏。同日に住職交代式も行われた。



○後任の責任役員及び院議会議員について

小林氏の退任に伴い、青木仁氏(第二十組圓周寺住職)が責任役員に就任されました。「院議会議員(書面決議)」にて十一月十日に全会一致で承認」

なお、青木仁氏の後任の院議会議員(選出教区会議員より輪番選定)には石塚祐堂氏(第十五組長泉寺)が就任されました。

○次回の「三條別院に想う」は、

瀧沢 正登氏

瀧沢 舞 氏(第十五組善性寺門徒)

よりご執筆いただきます

【次回は特別編の結婚式は全】

▲瀧沢さんご夫婦は十一月二十三日に三條別院本堂にて仏前結婚式を勤められました。新型コロナウイルス感染症のため一年越しとなった結婚式を無事に終えたお二人に、現在の心境や経緯などを執筆していただきます。



御煤払い奉仕団報告

二〇二一年の三条別院御煤払い奉仕団は、従来第十八組の推進員会・門徒会の研修として一泊二日で行われてきましたが、本年も新型ウィルスの影響で一日のみの日程となり、一般参加者も交えて十二月十二日午前九時から海岸輪番・浄圓寺御住職による御本尊・宗祖真向きの御影の御煤払いの後、参加者全員で内陣を含む清掃を行い、午前十一時から西村昌桐駐在教導による「本廟護持、法義相統」という講題の法話があり、引き続き本堂で同朋唱和と閉会式という日程で行われました。



西村駐在の法話聞き書き



本廟護持、法義相統とは

「本廟護持、法義相統」とは幕末に長州藩が京都に攻め入り退去する際、徳川幕府と関係が深かった東本願寺に火を放つていった。それにより焼失してしまった阿弥陀堂・御影堂を、明治時代に再建する際の標語である。親鸞聖人の教えを相統するため、真宗本廟を護持し、親鸞聖人の教えを相統しようと宗門を挙げて本山を建てなおした。

御煤払いと別院の護持

今年のお取り越し報恩講の後、マスクが真っ黒になった。報恩講では大きな蠟燭を使うので、煤がでる。電気に慣れている世代なので、本堂に煤がでるのだと驚いた。御煤払いは言葉を変えれば大掃除。大掃除とは、来年を迎えるため、人が集う聞法場所を掃除して大切にすること。教えは教えだけでは成り立たず、それを聞く人がいなければならぬ。本山が焼けてしまった

時に、維持して教えを隣や家族に伝えなければならぬという強い思いがそこにあったのだろう。聞くだけではいけない。

聞くだけではいけないということ

「聴聞する」「聞法する」というが、この一年間、いろいろな先生たちの話を聞いてきて、教えを聞くだけでは、仏教が成立しないことを改めて考えた。「歎異抄」に京都の親鸞聖人のもとを訪ねた関東の門弟たちに対して聖人が語った言葉がある。「おのおの十余か国のさかいをこえて、生命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御ころざし、ひとえに往生極楽のみちをと、いきかんがためなり」(『真宗聖典』六二六頁)。「問い」、そして「聞く」ということがいわれている。何を「問う」のか。自らの奥底にある因を聞いていく。春に若い人々と自主聞法会を開催した時、先生が「仏法はつまるところ、なんで俺はここにいるんだろう」という問いを聞いていくことなのだと言われたことが、印象に残っている。

阿弥陀仏が前傾している理由

浄土真宗の御本尊の阿弥陀如来は前傾姿勢である。鎌倉の大仏は阿弥陀如来であるが座像である。これは精神統一している姿である。立像は、「精神統一している場合ではない、この人こそ救わねば」というお姿である。この人とは、煩惱によって「身を患わせ、心を悩ま」している私たちのことである。

(聞き書き・斎木)

除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日(金)

午後十一時四十五分より

◇場所 三条別院鐘楼堂

◇受付 三条別院旧御堂

修正会

◇日時 二〇二二年一月一日(土)

深夜零時より

◇場所 三条別院本堂・旧御堂

◇お勤め後、輪番による新年の挨拶



有志の会庭講からのお知らせ

今年最後の活動で、中庭の冬囲いと落ち葉掃きをしました！新講員も入会して、来年はさらに活動を充実させていきます。



宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話を行います。どなたでもお参りいただけますので、皆様のご参詣をお待ち申し上げております。なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◇日時 一月二十八日(金) 午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日) 日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

照光雅能氏(第二十組照大寺) 〳

御文五帖目

▲二月は年頭会で輪番より法話。三月からは定例布教の法話講師に引き続き御文五帖目をテーマにお話しいたします(詳細は次号)

定例法話会のご案内

毎月十二日の闍如上人のご命日の定例法話会を宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お祝い受け事業として開催中です。前八回のうち四回が終了しました。一月はお休みです。二月からは、五月の教区慶讃お祝い受け大会に向け、本年と同じ講師に、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」を中心にお話しいたします。

◆今後の講師

二月 水嶋聡氏(高田教区 光徳寺)

三月 寺澤三郎氏(北海道教区 教證寺)

四月 中山善雄氏(教学研究所 研究員)

五月 澤面宣了氏(長浜教区 浄願寺)

◆日時・日程

毎月十三日 午後二時半 お勤め・感話

二時 法話、三時半 座談、四時半 終了(予定)

◆持ち物・念珠、勤行本(赤本)、筆記用具

◆場所 三条別院 本堂

フードバンクを継続中!

◇十二月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒

第十五組明覚寺、第十六組専養寺、第十七組光照寺

第二十組誓慶寺、佐渡絹間徒

その他匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は一月二十四日(月)です。

また、会所となっていたいただける場合は、県フードバンク事務局 090-8743-7838までご連絡をお願いします。

○別院声明教室

三条別院では毎月一回（二月・七月を除く）午後六時より声明教室を開催しています。各ご家庭のお内仏でお勤めできるよう、赤本に載っている講習内容です。二〇二三年の宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要では、「真宗の仏事の回復」が重点教化施策の一つとして掲げられています。

仏事というと、通夜・葬儀や法事などが思い浮かびます。それらもちろん大事ですが、お内仏の前での朝夕のお勤めも、それを縁として、御本尊を中心とした仏法聴聞の場として、そして家族皆で正信偈をお勤めして次世代へ念仏を相続していく場になってほしいと思います。正信偈をお勤めしたことがないという方でも大丈夫です。講師の先生が丁寧に合わせて教えてくれます。こんな時代だからこそ、皆さんと一緒に（もちろん感染対策を徹底して）正信偈をお勤めしましょう！（担当…小原）

○二月からの予定（月一回、午後六時〜八時）

二月二十五日（金）、三月十四日（月）、四月十五日（金）、五月十六日（月）、六月十三日（月）
講師 關根大丘氏（第二十組松韻寺）参加費五〇〇円/回



○別院書道教室（生徒募集中!）

〔月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時〕
講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）
月謝 三、二〇〇円（テキスト代含む）

随時募集中

○有志の会庭講「毎月十三日」

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか？

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊（絵像）をお迎えして、聞法会を開催しませんか？

○別院奉仕研修について

【奉仕研修冥加金】

一人あたり半日（午前または午後）五百円、一日千円
一泊二日は上記の冥加金に順じて半日五百円で計算する。
【その他実費でいただくもの】

- ①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。
- ②シート等クリーニング代千円
- ③食事代（ご要望等ございましたらご相談承ります）

◆◆編集後記◆◆

年末に差し掛かり、気持ちもつられて足早になる。今年は十七組の長福寺様や専福寺様の御遠忌法要に掛役としてお参りさせていただき、別院のお取り越し報恩講もあつたので、裏方のお荘厳をお陰様で随分させていただいた。所作が綺麗だった、息が合っていて良かったとお声掛けいただくこともあり、嬉しくなる。

しかしよくよく考えてみると、掛役は裏方、影のことであり、洗練された動きというのはつまりは目立たない自然な動き、浄土の荘嚴の一つとなる様であるかとも思う。また、これは受け止める自分の側の問題だが、褒められることで調子に乗って慢心し、かえって失敗してしまうということもある。そういう意味では、所作にしても心構えにしても、まだまだ洗練とは程遠い有り様なのだといよいよ知らしめられる。調子に乗りがちな鼻っ柱を抑え、益々の研鑽に励まねばと思つた。二〇二二年は有難いことにご本山の御縁をすでに多く恵まれ、一月には一週間ほど臨時の中央声明講習会（一回生）、二月と六月には一カ月の間、列座研修を受講させてもらえることとなった。合わせて二カ月ちよつと、京都で過ごすこととなる。嬉しい気持ちもあり、プレッシャーもあるなどで身の引き締まる思いである。しかしながら、これだけ長く京都へ行っていると、三条へ戻った時に机があるか心配であるが、そうならないよう学びを少しでも教区へ還元できたらと思う。

（廣河）